

◎幸せな贈り物

幸せな勉強



自殺マニュアル 韓国の慶尚北道の榮州で、集団のいじめにあった中学生が自殺して二日後に、安東でも同じ年頃の女子中学生が自殺マニュアルを作っておいて、そのまま自殺を実行して大きい衝撃を与えました。クラスで2~3番の成績をとるほど上位圏にいたキムさんが残した遺書には「ほんとうに、私の将来のための授業ではない。楽しく授業を受けるのではない強圧による訓練、成績が上がらない。勉強が難しい」などという内容が書かれていて、勉強に対するストレスが自殺を決心させるようになった原因だとあらわれました。そうかと思えば、昨年、学生と教授五人の引き続き起きた自殺で一度苦勞したカリストで、また再び在學生が自殺して衝撃を与えました。4年の在學生であるAさんの遺書形式のメモには「情熱が消えて進路が悩みになる」という内容が記されていました。今、学校の現場は巨大な精神病棟になっていく感じです。成績、競争、進学、就職…人間の性格がどうなるうが、狂ったように成功に向かって追われています。ソウル新聞が昨年、ソウル市内25個の区でうつ病の診断を受けた小・中・高校学生(7~19歳)の現況を分析した結果、全体の学生121万9,799人の中で6,134人がうつ病を体験していることがあらわれましたが、それはソウル市平均1,000人当たり5人の割合です。特に、6年間、エリートが暮らす学区だと呼ばれる江南区のうつ病学生は、ソウルの10%に肉迫すると明らかにされました。このごろの学生の悩みは、だれがなんと言っても勉強であるようです。勉強に苦しめられていたある学生に会ってこういうことを頼みました。「一生懸命に勉強せずに、幸せな勉強をしなさいね」その学生はびっくりして目を丸くしました。今まで数多くの人から「最善を尽くせ、がんばれ」という声を聞き慣れていたので、「幸せな勉強」という言葉が、なじみがうすかったのでしょうか。その学生が尋ねました。「幸せな勉強はどのようにするのですか」

幸せな勉強 ソウル大学の化学科の教授であるホン・ビョンヒ博士は、自分の学生時代を振り返りながらこういう告白をしました。「私には夢がありました。小学校3年の時から、父がずっと事業に失敗してはじまった私の家族の不幸、暗い現実の中で、私を支えたのは夢でしたし、私は勉強がそれを成し遂げてくれることだと追いつめられたように信じた。そのように、後ろを振り返らないで自らを鞭打って、とうとう望んでいた大学に進学できて、それが長いトンネルの終わりだと思ったのですが、それ以後にも父の失敗は続

きました。そのから後続く苦しみ、絶望…私は本当に知りたかったのです。なぜ私にこのようなことが起きるのか。教会で誰よりもさらに献身して祈っていた母が、なぜそのように苦勞するのか…。

私の人生は結局、このままトンネルのなかで終わってしまうのかという絶望感が襲ってきました。夜になっても目をとじることができませんでした。このように訪ねてきた不眠症とうつ病は、何週間も私を困らせました。その苦痛から抜け出すために、あらゆる方法をみな使ってみたのですが、私のたましいはますます疲れていきました。どのようにすれば、この苦痛から抜け出せるのだろうか。私の人生が終われば苦痛も終わるだろう…幼いころから私を導いてきたと信じていたイエス様は、その瞬間、どこにもおられなかったのです。アパートの10階に上がりました。はるかな下を見下ろしながら、問い直し続けました。はたして、これが私の終わりなのか、本当に他の道はないのか…その瞬間、私をとどませたのは、死に対する恐れであったのか、そうでなければ夢に対する未練であったのかかもしれません。幸い、私は後ろを向いて、切なる心で礼拝に参加し、心から祈りました。「神様!とても大変です。苦しいです。ここから抜け出させてください…」

差し迫った祈りの後、驚くべき変化が私に訪ねてきました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」(マタイの福音書 11:28~30) 私とはなんの関係もない一方的な神様の恵みでした。突然、すべての状況で神様のみことばを正しく信じて頼らなかった私が、まさに罪人だという気がしました。心より罪人であることを告白した瞬間、まことの福音とイエス・キリストのまことの意味が悟れるようになりました。イエス様の十字架の事件が、まさに私のための事件であったということがはじめて信じられて、また、私を追い詰めていた路地に推し進めた霊的存在があったということも知るようになりました。

した。その日、私は生まれて最も気楽に長く寝たのでした。目が覚めてみたら、日差しがいっぱいの朝でした。幼いころから、夢見つづけていた絵の中の風景が目の前に広がっていました。数トンの重さのように感じられた周囲のすべてのものが、突然、感謝だという気がしました。昨日と今日、変わったことは何もありませんでした。その方が私と本当にもにおられるということを悟ったこと一つの他には…とでもうれしかったのです。その後、学業が私にとってどんな意味なのかも知るようになりました。それまで私にとって学業は耐えて戦って克服しなければならぬ対象でした。そのために、学業に対する負担が大きくて、そこから抜け出すことができない時が多かったのです。ある日、そのすべての万物を直接創造して治める方が、いま私の中に私とともににおられるという事実が新しく悟れるようになり、私の技能、学業を含んだ周囲のあらゆる事物をもう一度見るようになりました。私の専攻である化学という学問も、神様が創造されたことで、神様の神聖さと力がかくされていて、これを通じて主がほめたたえられることを望んでおられるということを悟りました。そのときから祈ったのが「化学が私が味わうこととなりますように。創造主である神様の知恵を私にもください。私のすべてを通して主をほめたたえることを願います」私に答えがき始めました。すべてのノーベル賞受賞者をみな合わせたよりも、はるかに優れた知識と知恵を持っておられる神様が私の中に私とともににおられるということが、実際に信じられるようになった瞬間、私の頭と努力だけを頼って成し遂げられることは、きわめて小さいことであるということを悟るようになりました。私の弱さを主に告白して知恵を求める祈りをするようになりました。主は、やはり世の中で最も優れた化学者で、私の学業に私が手に負えないほどの大きい答えの門を開けてくださいました。その方が、今日、私をこの場所にまで立つようにしてくださいました。私を愛して答えられた神様は、みなさんを愛して答えることを願っておられます。この神様の愛と祝福をみなさんとともに分かちあえたらうれしいです。

幸せな勉強のはじまり、
それは神様とともにいることです。

どんな願いが なされるのを願っておられますか

聖書には、一般の人々が見て分かる部分があって、信徒だけが理解できるみことばがあります。また、聖書には、かなりよく信じる信徒や、正しく祈る人ではなくては、ほとんど理解できない部分もあります。聖書はおもしろかったり、そんなにやさしい本ではありません。そして、歴史の本でも、科学の本でもありません。それで、人々が理解ができないこともあります。しかし、聖書で話す霊的な内容を知らなければ、人生を生きていくほど、大変なことが起きるようになっていきます。今でも聖書みことばはそのまま成就しています。それなら、聖書は何を語っているのでしょうか。人間に向かった2つの霊的事実があることを語っています。ヨハネの福音書10章10節を見れば「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」というみことばが出てきます。

サタンの願い 人間を滅亡させようというサタンの願いがあります。最初に、自分も知らない間に悪魔の子どもになって、一生涯、奴隷になって生きるようにさせることです。二つ目、人生を生きていくほど不安と恐れに苦しめられて、神様ではない、とんでもない偶像崇拜でさらに深い苦しみの中に陥るようさせることです。三つ目、心のむなしさをあおりたてて激しい悪夢、金縛りにあって、不眠症と幻聴、幻覚に苦しめられ、極度の不安にうつ病やそううつ病に陥って、日常生活までできなくさせることです。四つ目、そうするうちに、肉体の健康まで崩れて、あらゆる病気の中でみじめな最後を迎えるようにさせることです。五つ目、結局、死ぬ瞬間にも神様を信じないようにさせて、地獄という永遠な苦痛と刑罰の中に陥るようさせることです。六つ目、私が苦しめられた霊的な問題と偶像崇拜ののろいが、驚くべきことに子どもにすべて伝えられて不幸の相続を通して家系を滅ぼすことです。しかし、神様の願いはそうではありません。

神様の願い 最初に、神様はイエス・キリストを通して私たちと永遠にともにいることを望んでおられます。二つ目、どんな環境の中でも私たちの生活を最も祝福された道に導くことを願っておられます。三つ目、そして、私たちの祈りを聞いて答えることを願っておられます。それで、神様がくださる力と能力で勝利する人生を生きていくことを望んでおられます。四つ目、イエス・キリストを信じて神様の子どもになる瞬間から、今まであなたを不幸にさせた悪いサタンの勢力に勝てる権威をくださることを望んでおられます。五つ目、私たちがいるすべての現場に主の御使いを送って保護して祝福の門を開けることを望んでおられます。六つ目、永遠な天国の国籍をくださって、この世を離れる日、永遠な天国の祝福を保証してくださいました。七つ目、それだけではなく、イエス・キリストを知らなくて苦しめられている人たち、家庭と家系を生かす最も価値ある人生を生きることを願っておられます。あなたはどんな願いがあなたの人生の中に成されることを願っておられますか。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」（使徒の働き 16:31）

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださいましたキリストであると信じます。いま、私の中に入れて来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト_シン・ジョンウン

ちがうことが まちがっていることでは ないのですが

世界を歩き回ってみると、ほんとうに世の中は広いのだが、多様なことを発見するようになる。しかし、共通で発見できることは、人の皮膚の色と大きさと形は違って、人間の血はみんな赤で、宗教の感性を持っているという事実だ。結局、すべての人に救いが絶対的に必要で、だれかがその事実を言ってあげなければならないのだ。

男性は他の性すなわち女性にひかれる。これは古今東西を通じて同じだ。仏教の書籍を見てみたら、おもしろい話があった。ある日、お坊さんが小坊主とが道を歩いていた。歩いているときに見たら、水の流れが速い小川があったのだが、ちょうどひとりの娘が渡ることができなくて、ためらっているのだった。お坊さんがすぐにその娘を背負って小川を渡して、恥ずかしそうにしながら感謝する娘を後に置いて大手を振って道を急いだ。一時間も過ぎたころ、小坊主がお坊さんにそっと聞いた。「和尚さんは、どうして、大きい娘をさっと背に負えたのですか」その時、お坊さんは、にっこり笑いながら小坊主をながめた。「私はその娘を一時間前に下ろしたが、あなたはまだその娘を背に負って通っているのだな!」このように、異性に対して引っぱられるのは、宗教の中でも当然なことと見なされている。ところで、広い世の中で特異なことに、男が女が好きだったり、女が男を恋慕うのではなく、男が男を愛して女が女を慕う同性愛者をたくさん見るようになる。外国では、これが問題でもあるが、ほとんど合法化される過程にあって、同性愛者のパーティーや同性愛者の教会も相当の数があることを見るようになる。しかし、これは単純な文化の特異性や個人の好みではない。あなたがたは一般で、私たちは二般だと同性愛者が話す、それはそのように簡単に説明する

部分ではない。良いことに引かれるのは、人ならば当然に味わう権利だが、選択にも常識があって、規範があるのだ。しかし、事実、原則自体が通用できない現象が彼らにはある。なぜなら、それは彼らの行為が学習から生まれたことでなく、生まれる時からそのような特性と体質を持っているから選択事項ではないのだ。しかし、聖書は人間の霊的問題による霊的状态がもたらす苦痛を明らかに指摘している。今、自分が、それでよいと感じて便利に味わう男どうし、女どうしの関係は、結局、原論を抜け出したことなので、明らかな問題と苦しみをもたらす。私のからだの要求は正しくて、その考えも確実だが、次世代を生産できないようにする問題とともに、男と女が結婚しなければならないという聖書の原論を満たすことができないので難しいのだ。異性とは違った同性を愛するから攻撃されるのではない。異性を愛しても正しい道に立つことも出来ない結果を私たちは数えきれないほど見てきて、また見ている。ただし、異性愛者と違った同性愛者の原則的な状態を回復する道が福音だあるという事実を知らせなければならなくて、分からなければならないためなのだ。思わず同性や両性にひかれる残念さに答えを得られない時間を送る苦しい人々に、イエスがキリストという福音の働きはまことの解答で証拠となる。そのどんな快樂も幸せな朝を与えない。ただし、福音を味わいながらもがく苦しみの夜は、幸せな朝を贈り物として与えるのだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ